

鎌倉～室町時代の遺物の多くは、井戸から出土しました。青磁・白磁・瀬戸美濃焼・珠洲焼・笹神窯産陶器・瓦器・土師質土器などの陶磁器類のほかに、漆器、箸状などの多様な木製品、妙法蓮華経薬草喻本第五が墨書された経石、銭貨、金属製品などがあります。陶磁器の年代は、13世紀中ごろから15世紀代と1世紀以上の幅があり、一定程度継続した集落であることが分かりました。遺物の質が比較的高いことを勘案すれば、周辺地域においても中核的な集落であったことが想定することができます。



中国から輸入された白磁（左）と青磁（右）



愛知県・岐阜県で焼かれた瀬戸焼・美濃焼



石川県で焼かれた珠洲焼



笹神丘陵で焼かれた陶器

笹神丘陵では、常滑焼にならって陶器が生産され、阿賀野川流域に流通しました。材料となった粘土には石を多く含みます。窯の印である「押印」のかたちから、13世紀後半に操業した「権兵衛沢窯」で生産されたものと判断できます。



漆器の皿（左右）と鉢（中央）

黒漆を全面に塗った上に、赤漆で文様を描いています。左端は扇をモチーフとしたと考えられます。すべて同じ穴から出土しました。



ぼうすいしゃよ  
紡錘車 糸をつむぐとき、糸に撚りをかける道具です。



### 中国から輸入された銭貨

銭貨は主に北宋（960～1127年）で作られたものを輸入して使用していました。当時の物価は、かわらけ（土師器皿）が1文、鎌が25文、茶碗皿が47文、大工手間日当が100文、井筒が400文です。



### 飾り金具

菊の花をモチーフとした飾り金具です。具体的な用途は明らかではありませんが、精巧な作り的高级品です。

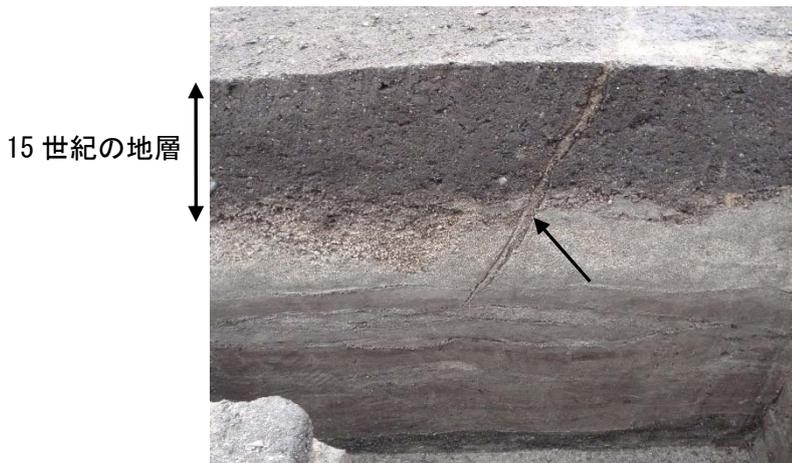


蓮華経薬草喻品

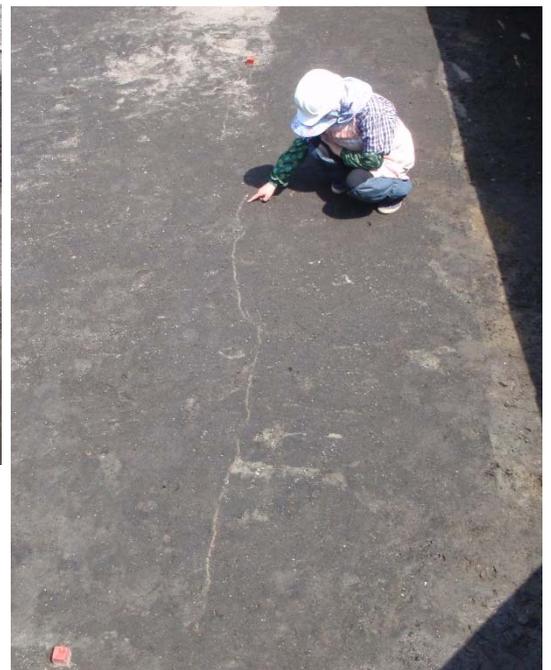
### 経石

石に墨で妙法蓮華経薬草喻品第五の一部が書かれています。民衆にまで仏教が広まっていたことを裏付ける資料です。

## 庄内沖地震（1833(天保4)年）で生じた？液状化跡



15世紀に堆積した地層を貫く液状化現象（噴砂脈）を検出しました。また、その直上に液状化による砂の堆積が認められ、それが旧表土（昭和期）を貫いていないことが分かりました。このことから、液状化現象は1964年の新潟地震によるものではなく、庄内沖地震によるものである可能性が極めて高いと判断しました。



## まとめ

当遺跡は、扇状地先端部に位置することから、砂丘列との間に形成された湿地帯に面した可能性が高いと考えられます。その影響か、洪水堆積物によって遺跡が被覆されるような状況を確認することができました。このようなリスクを抱えながらも、当地を利用した背景には、内水面交通の利便性を想定することができます。「小船渡」の地名は、そのことを裏付けているのでしょうか。周辺には「小舟渡」「舟入」など、「舟」に関連した地名が点在しており、一帯が内水面交通の拠点であった可能性も考えられるかもしれません。